

# 子宮頸がん 学生が啓発

熊本大プロジェクト 検診を歌で呼び掛け

・」が担当。女性6人、男性1人のグループで、ライブハウスや地域のイベントなどで2カ月に1回程度ステージを披露。啓発を呼び掛けるオリジナル曲などを歌う。

若年層に多い子宮頸がん

を知つてもらおうと、熊本大の医学部や薬学部の学生でつくる「K発プロジェクト」が活動を続けている。

学園祭で検診を行い、啓発ソングを歌うボーカルグループや、男性向けの啓発活動も。同世代へ正しい知識を伝えている。

子宮頸部にできるがんで、ヒトパピローマウイルス（HPV）が原因。HPVは性交渉で感染し、米国

の研究では性交経験がある女性の5～8割が感染経験があるとされる。

H PVは、ほかの部位に

できるがんの原因にもなり、男性も感染。ただし多

くは免疫で抑えられ、ウイルスも自然に排出されるため、発症率は0・1%程度と低い。

子宮頸がんの発症は20代に多く、国内では年間約1万5千人で見つかっている。検診による早期発見

を促す目的で、患者と同世代の学生らが2015年にプロジェクトを開始。検診と啓発の2本柱で活動している。

検診は学園祭の会場に検

診車を持ち込み、来場者を対象に実施。検診内容を説明する動画をネット公開、検診が受けられる病院マップの作成にも取り組んだ。

学生代表の穴井茜さん（29）、最勝寺里枝さん（21）は「若い世代に一番多いがんなのに、知っている人が少ない。まずは検診を受けほしい」と話している。

（林田賢一郎）



子宮頸がんの啓発に取り組む「K発プロジェクト」のメンバーら＝熊本市中央区